

駒澤大学2-2国士舘大学

JR 東日本カップ 2014 第 88 回関東大学サッカーリーグ戦		駒澤大学		国士舘大学	
1	1ST	1	1	1	1
2	2ND	1	1	1	1
3	EX T1	1	1	1	1
4	EX T2	1	1	1	1
5	TOTAL	2	2	2	2

両者悔しさを胸に、応援席へ
深々と一礼(撮影：向江凌介)



駒大らしいプレー魅せるも 初勝利にはならず 無念のドロー

4月16日 17:50 横浜市三ツ沢公園陸上競技場	
駒大 2 (1-1) 2 国士大 (1-1)	
得点者 (アシスト)	
[駒]13分 川岸(板倉)	[国]86分 渡辺(海野)
[駒]55分 小牧(小牟田)	[国]35分 木下(平松)
KOMAZAWA GK①秋山瑠偉(4) DF⑬大木 暁(4) DF④平尾優頼(4) DF③川岸祐輔(4) DF⑯柳川剛輝(3) MF⑤伊藤慎人(4) MF⑩板倉直紀(4) MF⑦平野篤志(3) (68分⑩キンデセン(2)) MF⑪小牧成互(4) (89分⑯吉岡雅和(2)) FW⑭中村駿(3) (74分⑬立石忠之(3)) FW⑨小牟田洋佑(4) S U B GK②積田景介(3) DF②嶋谷昇大(3) DF③鹿野剛己(3) MF④児玉卓也(2) MANAGER 秋田浩一	KOKUSHIKAN GK⑩大谷友之祐(4) DF⑦橘一輝(4) DF⑤仲島善貴(3) DF⑬端駿介(4) DF⑫藤寄智貴(2) MF②田中智也(2) (77分①高見啓太(3)) MF⑥海野智之(4) MF③松本和樹(4) MF⑨片山紳(3) (68分⑭渡辺隆斗(2)) FW⑯木下ロベルト(4) (74分⑬林祥太(2)) FW⑪平松宗(4) S U B GK②久保田晃次(4) DF⑤中村俊貴(3) DF⑦山田真己人(4) MF②矢口和典(3) MANAGER 細田三二
[シュート]11:7 [GK]12:11 [CK] 10:0 [直接FK]8:20 [間接FK]1:6 [主審]高寺恒如 [観衆]397人	
警告(C) / 退場(S)	
[駒]48分 伊藤慎人(C)	[国]64分 仲島善貴(C)
[駒]51分 平野篤志(C)	

あと一歩及ばず…

勝ち点 1 に留まる

開幕戦では大敗、二節では逆転勝利を許し二連敗中の駒大。今節の対戦相手は昨年リーグ四位の国士舘大学。前節の早稲田大戦から中三日と修正時間は限られていたが、この悪い流れを変える為にも勝利が欲しい大事な一戦に駒大イレブンが挑んだ。

その勝利を先に手繰り寄せたのは駒大だった。前半13分、板倉のCKを川岸がしっかりと決め先制点を獲得する。勢いに乗った駒大は、サイドを使った攻撃やシンプルに前にボールを運ぶ駒大らしい攻撃で何度もチャンスを作り出す。しかし得点には繋がらず、前半35分、DFの一瞬の隙を狙われあっけなく同点ゴールを献上してしまう。終始ボール支配率は駒大が上だったが、追加点は奪えず前半を1-1で折り返す。

後半開始早々果敢にシュートを狙う駒大攻撃陣。そして55分、小牟田の落としボールを小牧が合わし追加点を獲得する。ここでさらに追加点をあげ引き離したいところだが、その後は逆に国士大にボールを回される苦し

い時間。ワンタッチでボールを運ぼうとしてそれがミスに繋がリ、また、前線の攻撃が上手く運べなくなる。そして86分、左サイドを突破され放った技ありミドルが決まり、ついに同点に追いつかれてしまう。その後の流れは国士大で、あわや失点というフリーでシュートを打たれる危ない場面も。駒大も選手交代により加わったキンと吉岡が奮闘するも、2-2で試合終了。連敗は阻止されたものの、駒大が優勢に進んでいただけあって、試合終了間際の失点はなんとももったいなかった。それを表すかのように整列した駒大イレブンの顔色は晴れなかった。

秋田監督もいいプレーをしたと褒める板倉は、「攻めているときに点が取れない。これが勝てない要因だし、うちの弱さだと思う」と反省した。一点に留まらず、さらに追加点を決めきることが、一部の舞台で勝利をモノにする為には必要不可欠だろう。しかし今日の試合は、選手口をそろえて駒大のサッカーができたと振り返った。この勢いで、次節の明大戦も駒大らしいサッカーで悲願の初勝利を掴んで欲しい。

(小金沢 遥)